

2016年8月23日

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086
神戸市中央区磯上通 7-1-5
www.lilly.co.jp

EL16-48

本資料は、米国イーライリリーが2016年7月27日(米国現地時間)に発表したニュースリリースを日本語に翻訳したもので、内容および解釈については原本である英語が優先されます。また、日本の法規制などの観点から一部、削除、改変または追記している部分があります。

ジョン・C・レックライターが社長兼最高経営責任者(CEO)を退任 取締役会はデイヴィッド・A・リックスを後継者として選任

- リックスは2017年1月1日に社長兼最高経営責任者に就任し、2017年6月1日よりリリーの取締役会会長に就任します。
- レックライターは2017年5月まで引き続き会長を務めます。

2016年7月27日、インディアナポリス—イーライリリー・アンド・カンパニー(以下リリー)(NYSE:LLY)は本日、会長、社長兼CEOであるジョン・C・レックライターが、2016年12月31日をもって同社の社長兼CEOを退任することを発表しました。レックライターは、2017年5月31日まで取締役会に留まり非常勤会長を務めた後、取締役会からも退任する予定です。現在リリーのシニア・バイスプレジデント兼バイオ・医薬領域プレジデントであるデイヴィッド・A・リックスが、2017年1月1日付でリリーの社長兼CEOに就任し、取締役会の一員となり、2017年6月1日より取締役会会長に就任することが、取締役会の全会一致により決まりました。

レックライターは、次のように述べています。「リリーが近年の主要製品の特許期間満了などの厳しい時期を乗り越え、新たな成長期へと移行しつつある今こそ、リーダーシップの交代にふさわしい時期です。デイヴ・リックスは有能で決断力と活力に満ちたリーダーであり、私の後継者としてCEOに就任する心構えは十分にできています。彼は、リリーの営業・マーケティング部門での幅広い経験と、研究開発に対する正しい認識と理解を持ち合わせています。これまでに、カナダ、中国、および米国でリリーのビジネスの指揮をとりました。2012年からは、リリーにとって最大のビジネス分野であるバイオ・医薬領域を率い、大きな変革期のかじ取りを見事に果たして来ました。社内外で尊敬を集め、常に優れたチームを構築し、業績に対して高い目標を掲げる人物です。デイヴは、リリーが今あるチャンスを活用し、また将来待ち受ける課題にも取組むことができる指導者であり、今後のリリーに優れたリーダーシップを発揮してくれることでしょう」。

レックライターは、リリーのトップリーダーとしての任期を振り返り、「過去8年間、この素晴らしい会社でCEOの役割を果たしてきたことは、私にとってこの上なく光栄で名誉なことです。この間、リリー社員の皆さんからの常に変わらない支持と、大きな尽力に対してお礼を申し上げます」と述べています。

レックライターは、2008年4月1日付でリリーのCEOに、そして2009年1月1日付で取締役会会長に就任しました。1979年にプロセス研究開発部門の上級有機化学者としてリリーに入社、1980年代半ばには、英国のLilly Research Centre Limitedで医薬品開発部長を務めました。その後、プロジェクトマネジメント、薬事、製品開発、医薬品部門などで、リーダーシップを発揮してきました。2005年に社長兼最高執行責任者(COO)に任命され、取締役会の一員となりました。

リックスは、「イーライリリーのリーダーとなることについて、謙虚な気持ちになると同時に、心が湧き立つ思いもあります」と語っています。「我々は、患者・医師・医療保険者の方々、そして社会全体からの大きな期待を背負

っています。世界中のリリー社員たちと力を合わせてこの期待に応え、さらには上回るような力を尽くします」。

「リリーの戦略は適切です。優れたパイプラインを構築し、最近承認された有望な新薬のポートフォリオもあります。近年の主要製品の特許期間満了を乗り越え、私たちはよりフォーカスを絞り、これまで以上に注意深くかつ機敏になっています」とリックスは続けます。「これからは、より厳しさの増すグローバルな市場環境において、リリーが持つ成長へのポテンシャルを実現しなければなりません。そしてより良い医薬品を必要とする患者さんにお届けすることに重点を置き、それによって、社員、地域社会、株主の方々にも利益をもたらさねばなりません」。

リックスの後任のバイオ・医薬領域プレジデントは、後日発表されます。

2012年1月以来、リックスが率いてきたリリーのバイオ・医薬領域の事業は、アルツハイマー病、泌尿器疾患、免疫疾患、筋骨格疾患、疼痛などの治療領域や、当社のグローバル組織全体のマーケティング部門など多岐にわたっています。リックスは、欧州製薬団体連合会 (EFPIA) の理事会の一員であり、Trans-Atlantic Business Dialogue の共同議長も務めています。

1996年に事業開発部門のアソシエイトとしてリリーに入社後、リックスは米国において複数の営業・マーケティング部門の管理職を務めた後、リリーカナダに異動し、医薬品マーケティング部長、営業本部長、社長の職務を次々に務めました。その後、リリー中国の社長に任命され、2009年にリリーUSAの社長になりました。

リックスは、パデュー大学で経営学の学士号、インディアナ大学で経営学修士号を取得後、リリーに入社しました。Riley Children's Foundation の理事長を務めており、インディアナ州中部地区のユナイテッドウェイで、2015年度募金キャンペーンの委員長も務めました。また、ボーイスカウト・オブ・アメリカの Crossroads of America Council の執行委員会や、パデュー大学 Weldon School of Biomedical Engineering の諮問委員会のメンバーも務めています。

The Barnegat Group の社長で、リリーの社外取締役として Directors and Corporate Governance 委員会の委員長を務めるエレン・マラムは、次のように述べています。「リリーの 140 年の歴史上最も困難で厳しかったと言える時期に、力強くゆるぎないリーダーシップを発揮し、リリーバリューと呼ばれる誠実さ・卓越性・人の尊重という企業理念を大切に守り抜いたジョンに対して、取締役会を代表して感謝したいと思います。ジョンは、会社にとって重要かつ必要な変革を果敢に行い、直面する財務面のプレッシャーにもめげず研究開発に着実に投資し、常にリーダーシップの育成に力を注ぎました。そのおかげで、今日のリリーは強固な企業となり、最近の、そして近い将来予定されている新製品発売により、その展望は明るいものとなっています」。

更にマラムは次のように続けました。「取締役会は、徹底した綿密な手続きを経て、デイヴ・リックスを後継者に選任しました。デイヴは、バイオ・医薬領域のプレジデントを務めてきた 5 年近くの間、大きなグローバル組織を事業のあらゆる側面において成功裏に統率できる能力を示しました。製品開発、グローバル全体の営業・マーケティング、そして公共政策などの分野での経験を活かして、事業の継続性を確保し、今後さらに複雑性を増す事業環境においてリリーを正しく導いてくれるものと思っています」。

イーライリリー・アンド・カンパニーについて

リリーは、世界中の人々のより豊かな人生のために、革新的な製品に思いやりを込めてお届けすることを目指すグローバルなヘルスケアリーダーです。当社は、真のニーズを満たすべく高品質の医薬品の創造に献身した 1 人の男性により 100 年以上前に創立され、現在も当社のすべての事業においてそのミッションに忠実であり続けています。世界中で、イーライリリー社の従業員は人々の人生にインパクトを与えるような医薬品を発見し、それを必要とする人々に提供し、疾患についての理解や管理を向上させ、慈善活動やボランティア活動を通じて地域社会へ還元しています。イーライリリー社の詳細については www.lilly.com および newsroom.lilly.com/social-channels をご覧ください。C-LLY